平成19年10月28日　　第21号

柳川郷土研究会
会誌「水郷（すいきょう）」付録

瓦版

発行所　柳川郷土研究会
柳川市本城町113-1
発行人　武松　豊
編集責任者　金子俊彦

土竜(もぐら)の囁き

躾の格差

宴会に出るため倉永駅から電車に乗った。大牟田市内の女子高校生の姿が見えたが、数名は通路に車座をなしてあぐらをかいている。腿のあたりがあらわである。ここまで日本人は下劣になったのかと思った。

その帰り、夜も更けていたためばらであった。駅の電車待ちの人はまばらで少ない人影の中に、柳川の進学校の生徒二人が離れたベンチで食い入るように参考書を読んでいた。男子は特急で帰った。女生徒は筆者と一緒の普通車に足を運んだが江の浦駅で静かに降りていったが、筆者には純粋な学窮の姿が崇高に見えた。その車両には他の高校生が乗ってきたが、右手には携帯電話左手には菓子パン、立ちながらムシャムシャやった。アーァ、同じ高校生でもね。

先日は特急で久留米に行ったが、女子高校の生徒は座席に座るなり、カバンから手鏡と小さい道具を出してお化粧。思わず「少年老い易く学成り難し」の句を想いだした。「娘さんよ、学生さんだから外面の化粧より内面の蓄積をしたらどう、それが顔に現れ綺麗になりますよ」と云いたかった。

今、テレビ・新聞で盛んに格差というのを見たり聞いたりするが、それは金銭面での範囲を出ない。筆者が目にした高校生の品格の差は所詮その人物を育てた家庭の躾の差であろう。人間の世界で最も価値あるものは、大小を問わず人々に思いやりを感じさせる行為であろう。

家庭での心の躾が大切であると強く感じた車中であった。

（土竜）